



この夏、私たち夫婦は、およそ 30 年ぶりに一泊二日の旅行に出かけました。日ごろはお寺の宿命みたいなもので、夫婦で家を空けることは難しいのです。しかし今回は、幸い若院に寺役を任せられるようになりましたので、思い切って出かけることにいたしました。行先は信州方面でしたが、7月末のあの暑さには閉口させられてしまいました。

まずは善光寺へ。親鸞聖人が越後から関東へ向かわれた途中、ここ善光寺に100日ほど滞在されということです。爪で彫られたという石仏の阿弥陀如来は少し離れたところの小さな御堂に安置されていましたが、外からは確認できませんでした。石を爪で？眼病治療の信仰がある？とか少々疑問に思われるところあるのですが、法然亡き後、関東布教への思いを固めた大切な場所ではなかったかと思われ、感慨を深めたことでした。本尊に松の枝をお供えされる聖人の銅像もあって、縁の深さが感じられた場所でした。

松代城跡や上田城跡等スケジュールはきつかったのですが、長野の道路はとても走りやすく疲れを感じることはありませんでした。ほぼ思い付きの旅でしたが、「これが最後の旅かも知れないね」。の妻の言葉に、「確かにそうかも知れない」と、少々しんみりいたしました。

次回があるならば、聖人が越後に流罪になられ、船で降り立たれたという居多ヶ浜(ことがはま)を是非とも訪れてみたいと思っています。聖人は「海」という言葉を比喻としてよく使われていますが、ここ日本海の厳しい海を思い起こしてのことではないでしょうか。「本眼力にあいぬればむなしくすぐるひとぞなき **功德の宝海**みちみちて 煩惱の濁水へだてなし」(高僧和讃)

彼岸

彼岸とは阿弥陀仏の浄土を指します。

浄土は私たちが還っていく世界であると同時に、迷いの世界 彼岸に生きる私たちの在り方を照らし、私自身の生き方を問いかけてくる世界です。お彼岸は浄土に還って行かれた亡き人を縁として、あらためて自らの在り方を問うていく大切な時なのです。

秋季永代経



境内に咲くシユウメイギク

九月二十三日(日)

秋分の日

午前 九時三十分
午後 二時三十分

法話 住職 若院

亡き人を偲びつつ如来のみ教えにあいたてまつる

数かぞえきれない多くの縁をいただき、今ここに私の不思議に、感謝の思いを抱かずにはおられません。多くの参詣をお待ちいたしております。

法名をもつということ

帰敬式は「おかみそり」とも言いますがこの儀式をする中で「法名」いただくのです。法名は釈○○となりませんが、釈とはお釈迦さまの「釈」のことです。ですから仏教徒として生きていくことへの決意証でもあります。

今回の本山研修でも45名の方が受けられる予定です。光受寺全体では今回で十数名の方が受けられたということになり、おめでとうございます。おかみそりは本当の自分に出会っていくための新たな出発、新しい誕生日でもあるのです。



今月の法語

特に「独尊」といふことは、ありのままのそのままで尊ぶことなのです。世間では生産性を物差しにして価値を推し量ることが多いのですが、いかなる境遇にあろうとも、私が私として生きていくことに意味があるのです。ただ尊いこのちを尊く生きていくのが問題なのです。

天上天下唯我独尊

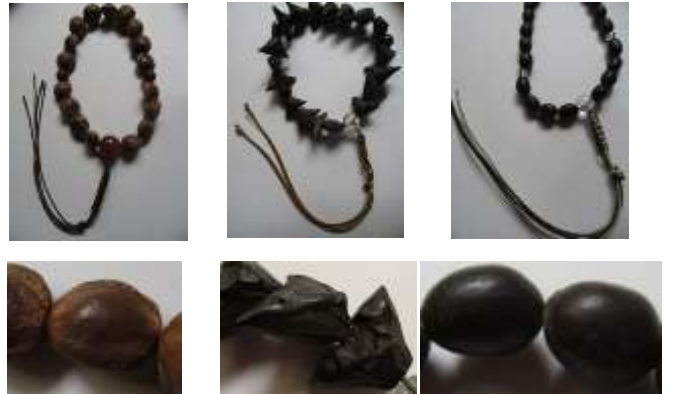


お釈迦様が誕生されてすぐに歩歩いて天と地を指して「天上天下唯我独尊」でんじょうてんげゆいがどくそんと言われたという伝承はあまりにも有名ですが、天にも地にもこの私たち一人ひとりだけがえのない存在であって今もこれからも代わりのきかないとてんじょうゆな。

何の実でできているか分かりますか？

最近お数珠づくりに熱中しています。お数珠といえば木や菩提樹の実、自然石といったものが一般的ですが、ほかにも様々にあるのです。

以前お数珠の結び方を掲載いたしました。今回は珍しいというか意外なもので作りまして、さて、次の数珠は何の実でできているか分かりますか？(捨ててしまいそうなものばかりです)。



みなとても軽くて使い心地抜群です。
柿の種 菱の実 蓮の実です。

意外に知らない浄土真宗

その1

○お仏壇にお参りするときは「おんじきり」は鳴らさない。

「おんじきり」は読経時に使う道具です。お参りするときは合掌してお念仏を称えます。神社の鈴のように鳴らしたりはしません。



○線香は立てない。

本来の焼香を簡略化したもので、線香を適当な長さに折り寝かせて使います。焼香時には額近くにもして、祈りを込めるような仕草はしません。

○般若心経は読まない。

浄土真宗のお経は浄土三部経と言って「仏説無量寿経」「仏説観無量寿経」「仏説阿彌陀経」を振り所としています。正信偈は親鸞聖人のお念仏の教への歴史の感動を偈歌にされたもので、正しくはお経ではありません(2)。

真宗は「絶対他力」の考え方で阿彌陀様のお救いを信じて生きることですが、般若心経は知恵をつけ、仏の道を進みましようという自力の教えが根底にあるのです。いずれも同じお釈迦様の教えではありますが、相手に応じた教えの説き方をされたことなのです。目的地に着くための方法の違いだと考えてください。

次号に続く

学習会 光受寺茶話会再開します。

学習会・・・毎月第二土曜日 7時～8時半

(正信偈の学び)

茶話会・・・毎週金曜日 午後一時半～三時

午後6時の時からと雑談の花時がかわるかな。

切れた数珠持
参して結び直
しませんか？

新聞原稿募集中!